

実施要領 様式11(第13条関係)
【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成19年9月21日

【評価実施概要】

事業所番号	270301609
法人名	有限会社ほおずき
事業所名	グループホームほおずき
所在地	八戸市是川1-11-1 (電話) 0178-96-4311
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成19年7月18日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	13 人	常勤 11人 常勤 2人、常勤換算 6.1人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨一部木造	造り
	2階建ての	1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	理美容代1,000円ほか 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	900 円	

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	15 名	男性	3 名	女性	12 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	9 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79.4 歳	最低	62 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	きむらクリニック、山本歯科、内科種市病院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

隣にある公園には、芝生や桜、草花が植えられており、四季を間近で感じることができる。地域の高齢者がスポーツを楽しむ姿や、子どもたちの遊ぶ声や姿が食堂の大きな窓から見え、利用者の五感を潤している。また、利用者も天気の良い日には公園等を散策し、自然を満喫している。

地域との関わりを大切にしており、町内会の集会や毎月開催される民生委員の会議に積極的に参加し、ホームのPRや認知症等の理解・協力が得られるよう、情報を提供している。また、地域の草取り作業やゴミ拾い等の諸行事に参加する等の取り組みも行われている。

毎月「ほおずきだより」を家族に送付しており、「たより」の中には利用者個々の生活の様子や、担当職員の気づきを手書きで掲載されており、利用者と家族を結ぶ一つの方法として機能している。

利用者の重度化や終末期に備えて早い段階から家族や医師と相談し、方針を決定する仕組みとなっている等、「心身ともに快適に過ごしていただけるためのケア」を目指して家族や医療機関、職員で意思統一を図りながら、日々取り組んでいる。

【特に改善が求められる点】

栄養バランスに配慮された献立を職員が作成しているが、摂取カロリーの把握が行われていないので、疾病の早期発見や健康管理のためにも、協力医療機関や保健所等の協力を得ながら、摂取カロリーを把握することに期待したい。

管理者始め職員は地域密着型サービスについて理解しているが、それが理念に反映されていないので、全職員で検討する等、現在の理念に地域密着型サービスの役割を盛り込んでどうか。

入浴時は利用者の羞恥心等に配慮した対応が行われているが、入浴日等の希望に応じるまでには至っていない。なるべく利用者の希望に近づけたいと意欲的なので、早期の実現に期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価結果は運営推進会議や家族等に報告し、改善点等について意見をもらっており、その上で全職員で検討し、改善に向けて取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者だけが評価に関わるのではなく、職員全員で取り組むことを方針としている。また、自己評価に全職員で取り組むことで気づき生まれ、それが利用者へのより良いサービスへとつながると認識している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を2ヶ月に1回開催しており、外部評価や自己評価の結果について意見をもらったり、ホームの課題や気づき、お願い事項等を気軽に話し合っている。運営推進会議で話し合ったことは職員会議等で全職員に周知しており、改善に向けた検討が行われている。また、委員には町内会長や民生委員が含まれており、地域住民とホームをつなぐ架け橋的存在となっている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>月1回「ほおづきだより」を発行しており、利用者個々の生活の様子を担当職員が手書き作成している。たよりには暮らしぶり等を掲載しており、家族が意見等を話しやすいよう配慮している。また、玄関に意見箱を設置したり、重要事項説明書にホーム内外の苦情受付窓口を明示し、意見等の把握に努めている。家族から意見等が出された時には、苦情処理手順に従って対応することとなっている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会の集会や地域のごみ拾い、草とり活動等に積極的に参加するほか、散歩等に出かけた時に地域の方々と挨拶を交わすなど、地域の一員として生活している。また、毎月行われる民生委員の会議にも積極的に出席しており、認知症の理解と協力を得るための活動を行っている。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>管理者の方針である「真心」を柱に、「人間としての気持ちを尊重した介護」「自分の大切な身内を介護するという心」「人間関係(協調性)を大切にしたい職場」の3つの理念が掲げられている。理念は玄関やスタッフルーム等に掲示するほか、会議等で周知徹底を図っており、全職員が常に理念を念頭に置きながら日々のケアを提供している。</p> <p>年間の研修計画を作成しており、全職員が平均的に受講できるよう、勤務体制を調整しながら取り組んでいる。また、受講後は報告書を提出して全職員に周知している。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>安心してサービスを開始できるよう、利用希望者や家族から十分に情報収集し、生活歴等の把握に努めている。</p> <p>職員は利用者を受け入れ、共感しようと心がけるとともに、「教えていただきながら、お世話させていただく」という姿勢を全職員が持ち、野菜切りや茶碗拭き等の得意なことを行ってもらっている。また、利用者に手伝わってもらった後には「ありがとう」の感謝の言葉を掛けている。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>家族の協力を得ながら、一人ひとりの生活歴や好きなこと等を把握するほか、日々の利用者との関わりから個々の思いや希望等を汲み取っている。得られた情報を基に全職員で話し合い、できる限り入居前と同じような生活が送れるよう、個別具体的な介護計画を作成している。</p> <p>利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援するほか、重度化やターミナルにも対応しており、指針を定め、早い段階から家族や医師と話し合い、意思統一を図っている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>職員は利用者の言動を急かすことなく、個々のペースを大切にしたいケアを提供するほか、日々の会話やアセスメントから利用者が好きなことやできることを把握し、それを生活場面で生かせるよう支援している。</p> <p>管理者始め全職員は身体拘束について理解しており、拘束は行わないことを基本姿勢とし、日々のケアを提供している。また、やむを得ず拘束を行う場合には記録に残すとともに、家族の同意を得る仕組みとなっている。</p> <p>居室にはなじみの物が持ち込まれているほか、利用者の作品を飾る等、一人ひとりが居心地良く過ごせる環境作りが行われている。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者や職員は地域密着型サービスの役割を理解している。管理者の方針である「真心」を柱に、「人間としての気持ちを尊重した介護」「自分の大切な身内を介護するという心」「人間関係(協調性)を大切にした職場」の3点の理念が掲げられているが、地域密着型サービスの役割を反映させたものとはなっていない。	○	管理者始め職員は、地域密着型サービスについて理解しているので、それを理念に盛り込むよう全職員で検討してはどうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員一人ひとりが理念を自覚してケアを提供できるよう、筆字で書いた理念を玄関やホール、スタッフルーム、トイレ前に掲示し、確認しあっている。また、管理者はケア会議等で職員と話し合いを行い、周知徹底を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	開設当時は近隣の理解が得られず苦労したが、職員の積極的な働きかけにより、現在は町内会の集会や諸行事、ごみ拾い、草取り等に利用者と一緒に参加している。また、散歩に出かけた時は地域の方々と必ず挨拶を交わす等、地域の一員として生活している。民生委員の毎月の会議にも積極的に参加しており、認知症等への理解と協力を得るための活動を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者だけが評価に関わるのではなく、職員全員で取り組むことを方針としている。また、自己評価に全職員で取り組むことで気づき生まれ、それが利用者へのより良いサービスへとつながると考えている。外部評価の結果はケア会議等で全職員で検討するほか、運営推進会議や行政、家族等に報告し、広く意見をもらう等、今後の改善につなげている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催しており、会議では課題や気づき、お願いしたいこと等について話し合いを行っている。また、自己評価や外部評価の結果を報告するとともに、改善策について話し合いを行い、より良いサービス提供に努めている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	パンフレットを持参したり、外部評価の結果を提出して報告している。また、電話や運営推進会議時を利用してホームの運営や課題等について行政担当職員に相談する等の連携が図られている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は必要により役所に相談に行くなど、権利擁護の必要性を認識している。外部研修に参加した職員が伝達研修として全職員に周知しており、職員は概要を理解している。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・外部研修を通して全職員が虐待防止関連法に関する理解を深めるよう取り組んでいる。管理者は日々のケア場面において、虐待が行われないよう十分注意を払い、目配りしている。職員も虐待について理解しており、虐待のないケアを実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、家族が疑問点等を話しやすいようホーム内の様子を見てもらいながら説明し、家族の不安解消や理解が得られるよう、情報提供と説明には十分に時間をかけている。また、契約書や重要事項説明書を基に、重度化した場合における対応や個人情報の利用等について説明し、同意を得ている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回生活の様子が記載された「ほおずきだより」を送付するほか、金銭管理に関する書類を送付している。また、サービス提供体制の変化や利用者の健康状態等の変化があった時は随時報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時には「何でも話してください」と伝えるほか、玄関に意見箱を設置する等、家族が苦情や要望等を出しやすいよう工夫している。また、重要事項説明書にはホーム内外の苦情受付窓口を明示している。家族から意見や苦情等があった時は管理者や全職員で話し合い、苦情処理手順に従って対応することとなっている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は利用者のことを考えて必要最小限とする等の配慮が行われている。新しい職員を配置する時は利用者に説明するとともに、利用者の微妙な変化を見逃さないよう、目配りや気配り、声かけを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成し、全職員が平均的に参加できるよう配慮している。受講時は日々のケアに支障のないよう勤務を調整するほか、受講後は報告書を提出して全職員に周知している。また、職員の業務に関する相談等については管理者や主任が対応している。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、研修会等の時には他施設との情報交換を行っている。また、近隣の3ヶ所のホームとの交流も図っており、互いに協力合ったり、見聞を広げ、サービスの質の向上につなげている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員は、利用者が安心してサービスを開始できるよう、利用者や家族から十分に話を聞いて生活歴等の把握に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の人間像の把握に努めるとともに、一人ひとりを受け入れ、共感しようと心がけている。「教えていただきながら、お世話させていただく」という姿勢を全職員が日々心がけるほか、野菜切りや茶碗ふき等の得意なことを手伝ってもらっている。また、利用者には「ありがとう」の感謝の言葉を掛けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	身体状況や生活背景を詳細に把握できるアセスメント用紙を使用し、家族の協力を得ながら入居前からの生活歴等を把握している。また、日常の関わりから利用者の思いや希望を汲み取るよう努めている。得られた情報は申し送りや会議等で職員間での共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わり等から利用者や家族の意向を把握するとともに、全職員で話し合い、一人ひとりの個性を重んじ、出来る限り入居前と同じ生活が送れるよう個別具体的な介護計画を作成している。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間が明示されており、基本的には3ヶ月ごとの見直しを行っている。また、身体状況の変化や家族の要望等の変化がある時には随時の見直しを行っている。見直しを行う時には再アセスメントを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望により、通院時の送迎や、買い物や散歩、理美容院への同行等、柔軟な対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受療状況を把握しており、協力医療機関も含めて利用者や家族の希望にそった医療機関での受診支援が行われている。また、協力医療機関からは24時間体制で対応してもらうほか、2週間に1回往診してもらっている。受診結果は家族に報告しており、共有が図られている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応にかかる指針についての説明書」を作成し、看取りまで行う基本方針を立てている。重度化した場合に備えて、早期から利用者や家族、医師等とケア方法について話し合いを行い、意思統一を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の言動を否定することなく、排泄時等は個々の羞恥心に配慮した対応を行っている。また、居室に入る時はノックや声がけを行う等、プライバシーに配慮している。職員は個人情報保護法について理解しており、書類は訪問者の目に見えない場所に保管する等の取り組みが行われている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の言動を急かしたり、業務を優先することなく、一人ひとりのペースを大切にした支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	アセスメントや日々の会話から食べたいものや嫌いなものを把握して献立に反映させるほか、郷土食を取り入れる等の配慮が行われている。また、利用者に果物や野菜を切ってもらったり、下膳を手伝ってもらっている。職員は利用者のそばに座って食べこぼし等へのサポートを行うほか、楽しんで食事が摂れるよう会話を促す等の取り組みが行われている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時はプライバシーやプライドを傷つけないよう十分配慮するとともに、利用者の身体状況に合わせて部分浴や清拭、足浴等を行っている。また、入浴を拒否する方には無理をさせず、声がけに工夫する等の対応を行っているが、入浴日等は利用者の要望に応えるまでには至っていない。	○	入浴日等、なるべく利用者の希望に近づけたいと前向きな姿勢を持っているので、早期の実現に期待したい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や特技等に合わせて調理の準備や食事の後片付け、趣味等を促しており、作業後は達成感を味わってもらえるよう「ありがとう」の声をかけている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム隣の公園に散歩に出かけるほか、利用者や家族の希望でドライブ等に出かけている。外出時には事前にバイタルチェックを行う等、体調に配慮した上で支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者始め職員が身体拘束について理解しており、拘束は行わないことを基本姿勢としている。やむを得ず拘束を行う場合には記録に残すとともに、家族から同意を取っている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠しておらず、外出傾向を察知できるよう見守りを行ったり、センサーを取り付け、察知した時には一緒に散歩に出かける等の支援が行われている。また、無断外出時に備えて郵便局への協力を呼びかける等の働きかけも行われている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中、夜間を想定した避難訓練を年4回実施するほか、災害時に地域からの協力が得られるよう働きかけを行っている。また、災害時に備えて毛布や飲料水等の備蓄品を用意している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養バランスに配慮して作成し、一人ひとりの食事や水分の摂取量を記録しているが、摂取カロリーの把握を行うまでには至っていない。	○	利用者の中には、糖尿病等の病気を持っている方もいるので、摂取カロリーの把握を行うことに期待したい。協力医療機関や保健所の協力を得る等、栄養士などの専門家の助言をもらえる体制作りにも期待したい。
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成するほか、年1回は保健所から講師を招いて感染症予防に関する学習会を行っている。新しい情報が入った時には随時マニュアルの見直しを行っている。玄関には消毒液や消毒機器を準備し、来訪者へ手の消毒を促す等の取り組みも行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはテーブルやソファ、廊下には椅子が置かれており、家庭的である。また、職員が立てる物音、ホーム内の明るさは適切である。ホーム内には季節の花が飾られており、時季への配慮も行われている。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物を持ちこんでもらうよう家族に働きかけており、居室には椅子やぬいぐるみ、生活用品等の愛用品が持ち込まれ、一人ひとりが居心地よく過ごせる個性豊かな空間となっている。家具等の持ち込みが少ない方には、利用者手作りの品を飾る等の配慮が行われている。		

※ は、重点項目。